

英語科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	音声指導中心の授業で児童生徒の英語力を引き上げる		
日時	令和6年8月8日(木)		
会場	北広島市立東部中学校		
講師	静 哲人 氏 (大東文化大学 教授)		
参加者	36名		
研修会 の 様子		講師の静先生は、発音指導法を研究の軸をおいており、発音指導を通じてリスニング力の向上やスピーキング力の伸長を提唱されています。研修の冒頭でも、「発音指導の心技体」を示し、中でも「心」について「英語を音として捉え直す」ことであるとお話しされ、私たち英語教師自身が意識を改革しなければならぬことを熱く伝えてくださいました。	
		また、発音指導の際に「生徒にわからせたいこと」として10個のポイントを示し、発音指導がいかに英語学習にとって重要かを説明されました。その中で、指導の際には歌やリズムを活用すると効果的であることや、日本語の文章の中で「L」や「R」を意識して発話させる等、思わず笑顔がこぼれるような指導法も教えていただきました。	
		研修の後半では、参加者の先生方にマイクを回し、静先生から直々に発音指導をしていただく場面もありました。参加者にはやや緊張の色が見えましたが、教師自身が考えながら発音する大切さを学ぶことができました。また、生徒がわかりやすく指導をするために、accidentならば〇。。のように丸の大小で表現したり、accidentのようにフォントサイズを変えたりする等、様々な工夫もご紹介いただきました。	
		静先生は最後に発音指導をするか・しないか、教師自身の発音がうまいか・下手かで英語教師が4タイプに分かれるとお話しされ、中でも「発音を指導し、かつ自分の発音もうまい」教師を目指すべきということを、熱をもって語ってくださいました。まさにそのモデルこそが静先生であることから、参加者も発音指導の重みを感じ、今後の授業に生かしていきたい、という声が多く上がりました。「また静先生の研修を受けたいです」という感想もあり、充実した研修会となりました。	